



# 園だより

段原みみょう保育園

令和5年8月



見てみて。

わたしたち、  
髪を一人で結  
ぶことができ  
るんだよ～。

大規模改修工事の為、保育室を移動して一週間が過ぎ、子どもたちも環境に慣れてきた様子が見られます。このまま8月末までは1・2階で過ごします。10月末の工事終了までは、保護者の方にご心配とご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、何かありましたらご連絡ください。

3・4・5歳児クラスに行くと、子どもたちは、「ねえ、見てみて。」と自分が描いた絵や、作ったものを見せてくれたり、できるようになったことを披露してくれたりなど、どんどんアピールをしてく

す。お家でも、このようなことは度たびあるのではないのでしょうか。この「見てみて」の行為は、承認欲求…例えば、「がんばったね。」「上手くてきたね。」という言葉をもらいたいという気持ちの現れです。そしてこの気持ちの現れに周りの大人がしっかりと応答してあげることで、より自分に対する自信（自己肯定感）が育っていきます。今の若者は、精神年齢が幼いと言われ、乳幼児教育実践研究家の井桁容子氏は、それは、乳幼児期の「見てみて」という気持ちが満たされなまま大きくなったことに因果関係があるのではないかとされています。例え忙しくても、そこは、ほんの数秒でも、視線を合わせ、短い言葉で褒めてあげたり、笑顔で「いいね。」のサムズアップ👍をするだけでもいいと思います。その時々の子どものアピールに耳を傾け、応え、認めてあげたいという大人の思いが子どもの心を安定させます。そこがおざなりになると子どもは、ありのままに自分を表現することに消極的になり、様々なことへの意欲も薄れていくのではないのでしょうか。私たち保育者も、一人ひとりの子どもに応答的な対応ができるよう努め、楽しく、満たされ、安心した毎日が過ごせる園にしていきたいと思っています。

さて先日の給食の時間の風景をお話します。その日のメインメニューは、子どもたちが大好きなカレーライス。1歳児のある女の子は、カレーを一口入れるたびに目が大きく見開き、至福の喜びを得たような幸せそうな表情になります。美味しく、たまらないといった様子で、あっというまに食べ終え、何度もお代わりをしていました。そばにいた保育士は、その一口ひとくちの表情の変化に合わせ、「あ～、おいしいんだね。」「う～ん、いいね。」「もっと食べたいね。」など言葉を添えています。こんな温かくほっこりできる日々にありがたさを感じます。小さな子どもたちは、言葉での表現はまだまだ難しくても、目や鼻、口、手足の動きで、たくさん感情を表してくれます。そこにしっかりと寄り添ってあげたいものですね。きっと自己肯定感が育っていきますよ。

8月早々に、段原小学校の先生方が保育園に来られます。0歳からのあそびを通しての心の成長を主に見ていただきたいと思っています。小学校就学時になかなか学校生活になじめないということなどが問題視されますが、一人ひとりの子がこの問題をスムーズに乗り越えられるよう、また保育園時代に培った学びが小学校でより大きく開花するよう、保育園と小学校とがしっかりと連携を取り合っていきたいと思っています。

園長 香川 寮子

先述の井桁先生は、NHKの子育て番組「すくすく子育て」等にも出演される著名な方です。園内にもお知らせを掲示していますが、9月18日（日）にオンラインでの講演会があります。「あそびがまなび」という演題となっています。ぜひ、お申込みされてはいかがでしょうか。